

井の中のかわず

井の中のかわず

(中国の古い話)

昔、ある古い井戸の中に、一ぴきのかえるがすんでいました。かえるは、毎日、井戸のふちで遊んだり、水の中を泳いだりして、自分のくらしにすっかり満足していました。

ある日、東の海にすむ大きなかめが、井戸のそばを通りかかりました。かえるは、自慢げに言いました。

「かめさん、ここはすばらしい所だよ。井戸の水は、全部ぼくのものさ。君も入ってきてごらん。」

かめは、井戸に入ろうとしましたが、左足を入れたとたん、右のひざがつかえて、それ以上は進めませんでした。かめは、後ずさりして、かえるに海の話をしました。

「海は、千里の遠さでも、その広さを言い表せないし、千仞せんの高さでも、その深さをはかることはできない。大雨がいくら続いても、水があふれることもないのだよ。」

かえるは、それを聞いて、目を丸くし、すっかり小さくなってしまいました。

この話から、自分のせまい世界にとじこもって、広い世界を知らないことを、「井の中のかわず、大海を知らず」というようになりました。「かわず」とは、かえるのことです。

1 かえるは、どこにすんでいましたか。

古い
の中



2 井戸のそばを通りかかったのは、だれですか。

ア 東の海にすむ大きなかめ

イ 山にすむきつね

ウ 空を飛ぶ鳥

3 かめが、井戸に入れなかったのは、どうしてですか。

ア 井戸の水が冷たかったから。

イ 右のひざがつかえたから。

ウ かえるがじゃまをしたから。

4 「井の中のかわず、大海を知らず」の意味に合うものに、○をつけましょう。

ア せまい世界にとじこもって、広い世界を知らないこと

イ 泳ぎがとても上手なこと

ウ 海よりも井戸のほうがよいこと